

# 益田版カトリック場 ～吉田小6年生×益田高校3年生～

高校生は、自分自身の人生を振り返って小学生に語りかけます。



小学生は、その話をしっかりと受け止め、対話が生まれます。

## 教育委員会だより

益田市教育委員会より 平成29年2月17日発行

第4号

### 教育の難しさを再認識

教育部長

川原 敏之

平成27年4月1日、益田市職員になって初めての教育委員会事務局勤務が始まり、これまでに22か月が経ちました。

この間、課題の多さと、それぞれの課題の難しさに驚くことが度々ありました。中でも「学校再編」は非常に難しい課題のひとつです。

文部科学省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を見ても、「小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいもの」と考えられます」という言い方にとどまっていますのは、この課題の難しさの表れかもしれません。

先日、小学生の児童と一緒に給食を食べた時のことです。隣り合わせた6年生のS君が周りの児童たちに

「今度〇〇さんは人数の多い学校に転校するらしいよ。もうすぐこの小学校も統合されるんじゃない」という話をしている声が聞こえました。

私が彼に「友達はいいほうがいい？」と尋ねると、「うん。でも人数が少なくても良いこともあるよ」という言葉が返ってきました。そして、何をすることも怠けることはできなくて、何かの役目を担わなければならないこと、児童同士はみんな仲が良いこと、少数でも授業ではいろんな意見が飛び交っていることなどの話を伺いました。さらに、「通常の授業は複式で、先生も児童も大変だけど、先生が一方の学年を教えている時には、もう一方の学年は児童の誰かがミニ先生となって自分たちの授業を進めることがあって、その

ことが児童自身にとっては非常に勉強になる。おかげで国語の成績は良いよ」とのことでした。

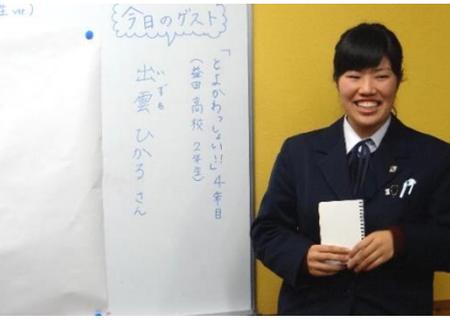
益田市は平成27年10月に策定した「まち・ひと・しごと創生益田市総合戦略」において、全ての基本目標における施策に人材育成を盛り込んでいます。

改めて、「児童・生徒にとってどのような教育環境が良いのか」ということを考えさせられた出来事に触れ、「教育」の役割は非常に大きいと再認識させられました。



平成28年12月13日、豊川小学校に新設された地域交流スペースにて、地域の活性化に取り組む「とよかわっしょい」で活躍する先輩を迎えた授業が行われました。地区運動会の種目や地区文化祭への出店の企画、フォーラムでの発表など、具体的な取組や活動への思い、活動を通して得た力について、5、6年生に向けて笑顔いっぱい語りかけました。

5、6年生は、前時に地域で様々な活動に取り組んでいる方からも取組に込められた思いを聞き、自分たちが何気なく参加してきた行事への理解を深められた。中学生になったら参加できる「とよかわっしょい」の話は、地域と自分とのつながりをより身近に感じる機会になったと思います。



活動のモットーは「ゆるく 楽しく」  
益田高校2年 出雲ひかるさん

出雲さんは、授業の最後に「みんなにとって『とよかわ』って何ですか?」と問いかけました。子どもたちからは「豊川は人情に厚い」「中高生が協力してくれる」などたくさんの思いが出されました。「地域を明るくしたい」「みんなを元気にしたい」という出雲さんの思いが子どもたちに届いたと思います。1月には、これまでの学習をまとめ、地域授業公開日に地域の方に思いや考えを発表しました。



子どもたちの力を伸ばしていくためには、どういった機会をつくってあげればよいのか。学校地域一体となり、地域総がかりで子どもたちの力が発揮できる場をつくっていかうとする豊川の取組は、次の世代につながる好循環を生み出しています。

私は益田市奨学金制度を受け、県外の看護学校へ進学しました。3年間勉強と実習に励み、現在益田市内の病院で看護師として勤務しています。

在学中は一人暮らしということもあり、学費に加え生活費も必要でした。高校時代に進学の貯蓄をしていたわけでもなかったため、どうやって生活しようかと悩み、不安がありました。しかし、益田市の奨学金から毎月一定金額を貸与していただけだったので、卒業までの3年間、毎月安定した生活が送れました。

看護学校でのスケジュールが過酷な時期があり、体力的にも辛い時がありました。が、アルバイトをしながらも生活することができ、勉強と実習に集中できた事が非常に大きなメリットがあったと思います。

益田市奨学金制度は向学心を持った私たちの背中を力強く押してくれました。しかも就職してすぐに返還が始まるのではなく、一年間据え置き期間があることや無利子であること、自分のライフスタイルに合った返還計画をたてられる事も、この奨学金制度の魅力ですが、この度さらに一部返還免除制度が新しく採用されました。全国基準でもここまでは応援していただけないのではないでしょうか。

私はこの奨学金制度に寄付してくださった方々の思いを忘れず、これからも益田市で働き恩返しをしたいと思います。今、この制度を利用したいと考えている方は申請をお勧めします。そして共に益田市で活躍しましょう。

(文・藤原安孝さん)

## 新職場体験

### 「益田のひと・仕事・発見ディスプレイ！」

今年度、市内の各事業所等と2つの中学校が協働して、新しい「職場体験」を実施しました。

新職場体験は、「ワークキャリア」に偏った単なる仕事の体験ではなく、そこで働く「ひと」との出会いを通して、生き方や暮らし方、働き方を知り、「ライフキャリア」の考え方を育むことを目指しています。

改訂のポイントは、学校と受入れ事業所等で、新しい職場体験の意義をしっかりと共有したことです。受入れ事業所に対して、職場体験は「自分たちの仕事や働いている人の魅力を積極的に伝える場」「中学生への指導を通じた若手の人材育成の場」であること共有しました。職場体験は子どもたちのためだけに実施するのではなく、益田で今働いている事業所等

元気にするための取組でもあります。

そこで、各事業所に生徒に対する「求人票」を作成してもらいました。どんな思いでどんな仕事をしているのか、どんな人材を育てたいかのピーアールです。独自の職場体験のカリキュラムを考案する事業所も出てきました。

学校に対しては、生徒に「面接」を実施しました。

見知らぬ大人との面接という緊張する場面です。なぜその職場で体験したいかを自分の言葉で伝える中で、生徒が「職場体験をする意味」を真剣に考える姿が見られました。

今回の産学官の協働のように、多様な団体が目的を共有し、それぞれに活動の意味を考えることで、より価値ある取組が生まれま

## 毎年1月26日は、文化財防火デーです

昭和24年1月26日に、世界最古の木造建造物である法隆寺金堂が炎上し、壁画が焼損しました。このことを契機に、この日を「文化財防火デー」として定め、全国的に文化財防火運動を展開しています。

益田市でも1月26日に、平安時代に製作された県指定文化財「木造観音菩薩

薩立像さつりゅうぞう」がある乙吉町の大喜庵たいきあんにて、益田広域消防本部による放水訓練・消火訓練が行われました。

当日は多くの近隣住民の方や、雪舟保育所の園児さんに見学に来ていただきました。本当にありがとうございました。

一人ひとりが防災の意識を持ち、地域の宝である文



化財を災害から守りましよう。

## 人を育てている学校の人権学習

12月に人権センターで「いのち・愛・人権」展を開催し、様々な人権課題について地域の現状や、問題を提起した内容を展示しま

した。人権について新たな気付きや自ら考え取り組もうと意識された、多数の来場者がありました。

その中に、多くの子どもたちの姿がありました。こ

れは、各学校の人権学習の取組であり、事前学習やワークシートを持参して展示内容に深く接し、積極的に質問や当事者とのふれあいもできました。「多くに気

付いたが、自分には何ができるのだろう。自分たちが関わろうとしないからで、たくさんが意識すれば変わっていく」等の感想もあ

り、他人事ではなく自分が関わることの大切さに、子どもたちは気付きました。この気付きから学びへつ

ながり、自分の大切さとともに、他者の大切さを認める人権意識豊かな子どもへと成長します。これを導く学校での人権学習の素晴らしい取組は、正に人を育てていると感動しました。

# 美都学校給食共同調理場が再開しました！

美都学校給食共同調理場の改修工事が完了し、本年1月6日から調理を再開しました。美都中学校、東仙道小学校、都茂小学校、道川小学校の4校へ給食を届けています。

初日の献立は、美都の幸井、白菜の柚子酢和え、豆腐のみそ汁、牛乳でした。

美都産の食材を多く使用した献立で、美都の香りを楽しくみながら、笑顔で、おいしく食べてもらえるよう、そして時間通りに届けられ



るように作業を進めました。

決められた時間に給食を提供する責任のもとで調理を行い、「おいしい」という言葉を児童生徒の皆さんから聞くことができ、給食を提供することへのやりがいを感じると感じました。

学校給食は、厳しい衛生管理基準を守り、細心の注意を払って作っています。また、感染性胃腸炎の原因になるノロウイルスが流行しているため、ノロウイルス防止策も実施しながら進めています。

調理場が再開して1か月経過しましたが、児童生徒の皆さんに、安全でおいしい給食を確実に届けるために日々努力しています。

美都学校給食調理場では、新鮮で安全な地場産物を多く活用できるよう努めています。給食に使用する



予定の食材について、毎月開催する美都地域地産地消推進会議の中で、生産者、卸業者、調理場の職員が話し合いながら使用を進めています。今後は、更に美都の食材を利用した特色あるメニューを提供できるよう工夫していきたいと考えています。

美都学校給食共同調理場が架け橋となり、生産者と児童生徒の皆さんとのつながりを大切にしながら、愛情込めて作ったおいしい給食を提供できるように務めてまいります。

# 寄付・寄贈のお礼

## 益田市奨学金に寄付

- ・ 東京都八王子市 田上 房見 様、勝子 様
- ・ 須子町 故 田原 美治 様
- ・ 向横田町 田中 等 様
- ・ 薄原町 青木 儀 様
- ・ 益田ライオンズクラブ 様
- ・ 年忘れ益田市民余芸大会事務局 様
- ・ 島根県合唱連盟益田支部 様
- ・ 小中学校図書購入費の寄付
- ・ 西中国信用金庫 様
- ・ 小中学校に図書寄贈
- ・ 島根県地学会 様
- ・ 市立図書館に石見実業時報複製版及びDVD寄贈
- ・ 株式会社ジュンテンドー 様



図書購入費の寄付

# 新教育委員の紹介

平成28年12月25日付けで任期満了により永田千秋委員が退任され、新たに同月26日付けで舟橋道恵委員を迎えました。